
生物一般



すみれとあり (かがくのとも傑作集)

矢間芳子／作
森田竜義／監修

福音館書店 2002年 838円

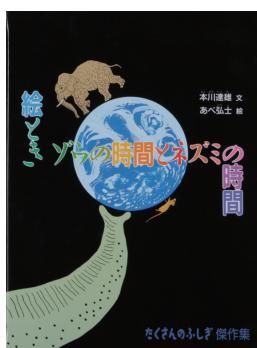
春、すみれの花の近くをありが歩いています。花が終つてすみれば実を付け、さわやかに晴れた日、ピチッピチッと種を飛ばします。種に付いた白い塊は、ありにとつてのご馳走です。すみれとありの共生関係を美しく描いています。



がぶり もぐもぐ (かがくとなかよし)

ミック・マニングとブリタ・グランストローム／作
藤田千枝／訳
岩波書店 1999年 1600円
※現在品切れ

「ちいさなめ たべたいのは だれかな?」それは虫、虫を食べたいのは鳥、その鳥をねらうのは…。楽しみながら読みすすむうちに、食物連鎖という大きなテーマがやさしく理解できる絵本です。



絵とき ゾウの時間とネズミの時間 (たくさんのかしこ傑作集)

本川達雄／文
あべ弘士／絵
福音館書店 1994年 1300円

なんと、大きなゾウと小さなネズミが、それぞれの一生で心臓の打つ回数は同じ。どの動物も体重に関係なく、呼吸1回の間に心臓は4回打つことを明らかにしていきます。ただしナマケモノは…。「それぞれの動物は、それぞれの時間の中で生きている」。『ゾウの時間 ネズミの時間』の絵本版です。

(参考図書)
『ゾウの時間ネズミの時間 サイズの生物学』(中公新書)
本川達雄／著
中央公論社 1992年 680円



海辺のすかん

松岡達英／作

福音館書店 1983年 1400円

海と陸の接点、海辺をカラフルに描いた図鑑です。砂浜の貝がら、植物、鳥類、潮だまりの生き物、魚貝類などの絵と名前がずらりと並びます。海辺のあそび、キャンプ用品、テントの張り方、料理方法までも。海辺に出かけるときに役立ちます。



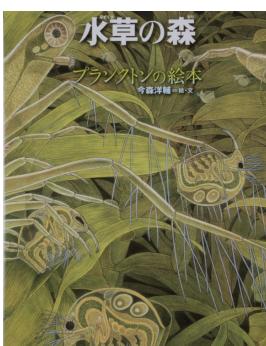
土をつくる生きものたち 雜木林の絵本 (ちしきのぼけっと 1)

谷本雄治／文

盛口満／絵

岩崎書店 2005年 1400円

雑木林の生き物たちは、地表の上と下で相互につながり、土を作り、植物はそこに芽を出します。野山の草木を育てる地上と地中のしくみを、迫力ある絵で伝えます。



水草の森 プランクトンの絵本

(ちしきのぼけっと 10)

今森洋輔／絵・文

岩崎書店 2010年 1400円

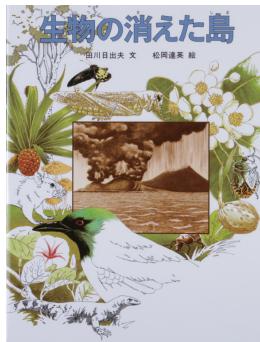
湖の多くの生き物たちの胃袋を支えているのは、小さすぎて肉眼では見えない生物、プランクトンたちなのです。湖に棲む51種のプランクトンの生態を紹介。顕微鏡で拡大し、細密に描いた美しい絵本です。

(参考図書)

『ミジンコはすごい!』(岩波ジュニア新書)

花里孝幸／著

岩波書店 2006年 780円



生物の消えた島

田川日出夫／文
松岡達英／絵

福音館書店 1987年 1300円

1883年の大噴火で生物のいない島となったインドネシアのクラカタウ島。科学者たちは定期的に島を訪れ、植物や生き物の種類、数を調べました。噴火後36年間で島全体が再び緑におおわれました。実験室ではできない、長い時間をかけた生物の世界の変化を追った絵本です。



切っても切っても プラナリア (新装版)

阿形清和／文
土橋とし子／絵

岩波書店 2009年 1800円

プラナリアは、驚異の再生能力をもつ三角頭の小さな生物です。切っても切ってもプラナリアに再生する様子を観察することで、実験・観察の面白さやポイントを学ぶことができます。



サルが木から落ちる 热帯林の生態学

スザン・E・クインラン／著
藤田千枝／訳

さ・え・ら書房 2008年 1500円

「チョウをだますトケイソウ」「翼のある果物どろぼう」など、生物学者たちが生態学の研究成果をもとに著した12のサイエンスストーリー。中・南米の熱帯林で自然のかくれたつながりが、複雑に絡み合う姿が書かれています。「生き物たちの奏でるシンフォニー」が聞こえてくるようです。



ミイラになったブタ　自然界の生きたつながり

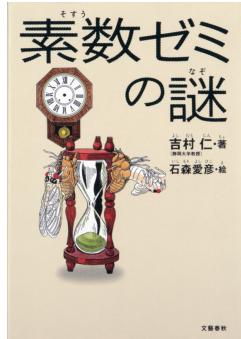
スーザン・E・クインラン／著

ジェニファー・O・デューイ／絵

藤田千枝／訳

さ・え・ら書房 1998年 1300円

生態学者たちがつづったオムニバス・サイエンスストーリー。表題作のほかに「チョウはなぜ美しいか?」「消えたノウサギのひみつ」「育ちたくない木」など、自然界の生きたつながりが見えてくる14の話が入っています。



素数ゼミの謎

吉村仁／著

石森愛彦／絵

文藝春秋 2005年 1429円

セミは一生のほとんどを地中で過ごします。日本のセミは1~7年間ですが、アメリカには、13年間あるいは17年間地中にいて、一度に何億匹も大量発生する周期ゼミがあります。ほかの生き物と違って、進化の過程で「みんなと一緒に出てくる」という奇妙なルールを守らないと、子孫を残せなくなってしまったのです。この謎に、素数の概念を用いた数理モデルで迫ります。



『訓蒙窮理図解』 第二章「空気の事」より



『訓蒙窮理図解』 第二章「空気の事」より